



ランサーがモンテを
目指すとき
高齋 正

徳間書店(7/10刊・¥650)

“カーSF”と呼ばれる作品の中でも、本編を含む(車名を表題に掲げた)四長編は、異色の小説と言っていいかもしれない。実在するメーカー、そして、実在するレース——登場する車だけが架空の存在である。

三菱ランサーEX2000GT、ラリー用に改造され、二四〇馬力エンジンを搭載したこの新型車は、市場拡大を目的に、モンテカルロ・ラリーを目指す。しかし、その前には、苛酷な雪道と、強力なライバル、フィアット、フォード、新型ランチア・ストラトスらが立ちはだかつていた……。

主役は車である。そのため、カー関係の専門用語が頻出する。この辺りは、SF用語の多い(いわゆる)ハードSFを思わせる。ただ、それもほとんど苦にならず、一気に読み終えた。

わが国では、SFの守備範囲が広いと、よく言われる。けれども、この現象を裏返せば、現実になしでも夾雑物を認めるともはや一般小説ではないと判定する、日本小説界の狭量さが浮かび上がってくる。本書などはそういう曖昧な小説のレッテル(分類)の間で、独自の位置を占めはじめているようだ。(俊)